

悠久の京を訪ねて Part IV Vol.3



KYOTO
ARCHAEOLOGY CENTER

京は古より人々が集い、その気候・風土の中、人々の生活が営まれてきました。

京都府内の遺跡で多数発掘された出土品により、縄文・弥生時代までさかのぼり、当時の様子を知ることができます。

私たちが住んでいる地域にはどのような歴史があったのか、出土した資料を基に過去の文化やその発祥の歴史を訪ねましょう。

府内最大の円墳 — 国史跡市円山古墳 —

私市丸山古墳

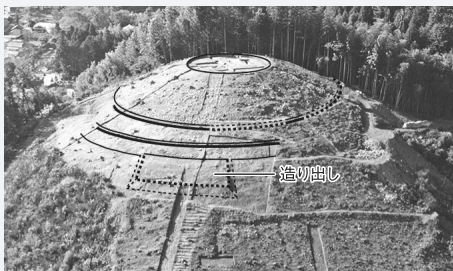


■私市丸山古墳の調査

綾部市私市丸山古墳は、福知山市との市境近くの由良川を見おろす丘陵の上にあります。

昭和63年、舞鶴若狭自動車道の建設に伴う発掘調査で、5世紀中頃に造られた直径約70m、高さ10mの大型造り出し付きの円墳であることが分かりました。墳丘は3段に築かれ、斜面には河原石が敷き詰められていました。墳丘の平坦部には埴輪列が巡っています。

古墳からは3基の埋葬施設が見つかり、このうち2基には銅鏡や玉類・たてし堅櫛などの装身具とともに、剣ややじりなどの武器や甲冑かっちゅうなどの武具、農耕具などの鉄製品が副葬されていました。これらの副葬品は、京都府指定文化財（「私市丸



空から見た古墳の姿

山古墳出土品)」となり、綾部市資料館で展示されています。

■被葬者の人物像

由良川中流域（現在の福知山・綾部市）では1,000基近い古墳が造られていますが、5世紀前半までは首長墓としては大規模な前方後円墳は造られておらず、綾部市聖塚古墳ひじりづかなどの大型方墳が造られているのが特徴です。

私市丸山古墳は、この地域で伝統的に築造されてきた方墳ではなく、突如出現した大型の円墳であること、また、出土した武器や武具類の様相がヤマト王権の中心部とよく似ていることから、ヤマト王権と密接な関係を持ちながらこの地域を治めていた人物の墓と考えられます。

古墳は、国指定史跡となり、綾部市の努力により築造当時の姿に復元・整備され、公園として活用されています。



私市丸山古墳出土の甲冑